

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3372700413		
法人名	医療法人 福嶋医院		
事業所名	グループホーム いるかの家		
所在地	岡山県浅口市寄島町15-29		
自己評価作成日	平成25年2月20日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利法人 高齢者・障害者生活支援センター		
所在地	岡山市北区松尾209-1		
訪問調査日	平成25年3月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

玄関、食堂が二箇所あり、1ユニットを4人と5人に分けることで、より家庭的な環境作りが可能である。利用者が介護される一方的な立場にならないように、共に暮らす家族として寄りい、さりげなく支えるように努めている。主体性を持って生活していただくよう、自らの行動しやすくなるような声かけを意図的にしている。一人ひとりに合った役割を持ち、楽しみを持って生き生きと暮らせるよう支援している。利用者同士が関わり合い、支え合えるよう、相性を配慮し、それぞれのペースを尊重しながら積極的に家事に参加していただき、共同生活としての支え合いを大切にしている。また、運営母体が医療法人であり、他職種との連携を図る事が出来るため利用者の状態に応じた個別ケアが可能である

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

基本理念のもとに、利用者を尊重し、利用者の尊厳を守りながら共に支え合い、安心した暮らしを継続していく事を目標に職員一人ひとり目標を掲げ共有しサービスの向上に努めている。業務を担当制にし美化、栄養、行事、新聞、倉庫、感染予防、その他、責任制を導入した、医療法人内での研究発表大会で事例を発表して業務の改善に役立てるなどサービスの質の向上に努めている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目: 23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目: 9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目: 18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目: 2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目: 38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目: 4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目: 36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目: 11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目: 49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目: 30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目: 28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念「皆に優しく共に楽しく」を基本理念に、ノーマライゼーションの街作りを目指している。朝礼時に理念を唱和し意識するよう努めている。また、グループホームの理念「共に暮らす家族として寄り添い、さりげなく支えます」を実践している。	朝礼時に基本理念を唱和している。グループホームの理念はそれぞれの名鑑の裏に書いて共有に努め実践につなげている。自分らしく家族と寄り添い、笑顔、安心の支援がなされている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	買物、外食、図書館、美容院等に行っている。また、初詣に行ったり、地域の祭りに参加したり、文化祭への出品もしている。	いるか祭りほ地域より大勢が集まり利用者の方も喜ばれ交流につながってがっているようです。隣接施設の託児所の卒園式に参加したり、文化祭には書道、折り紙、牛乳パックの作品 出品 秋祭りの御神輿を拝む等している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人全体として、いるかの家セミナーを開催するなど地域の方に向けた講演会を計画実施している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	1回/2ヶ月、運営推進会議を開催している。地域住民、家族、市職員、有識者、施設職員が集まり活動報告をし、意見交換をしている。運営推進会議委員の皆様にいるか新聞を郵送し、グループホームの様子を伝えている。	2ヶ月に1回運営推進会議を利用者、家族の代表や高齢者支援課長の参加で開催し課長から研修、講習の誘いがある等活動報告や情報、意見交換をしてサービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に市職員に出席していただき、現状報告したり、不明な点があれば、随時相談している。	不明な点があれば一緒に取り組み協力関係を築くよう取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	原則身体拘束はしないと決めており、全職員で実践している。検討事例がある場合には、毎月のスタッフ会議で話し合い、本人、家族に同意を得るようにしている。	原則身体拘束はしてはならない強い決意で実践されており、今年度は特に問題もなく、良策対応をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は身体的な虐待だけではなく、スタッフからの言葉や態度での虐待が起こらないように、グループホーム内の勉強会で定期的に話し合い、実践につなげている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前、成年後見人制度の利用者があったため、研修会があれば参加している。今後必要と思われる利用者がいれば、随時関係者と話し合い活用していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、管理者が対応し、資料に沿って説明している。また、不明な点がないか疑問点などを尋ねるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時には、家族に積極的に話し掛けるようにしており、家族の意見が日頃のケアやグループホームの運営に反映できるように努めている。また、面会が増えるよう、誕生日会へ参加してもらっている。	家族からの意見や要望が聞けるよう機会を設け、積極的に取り組んでいる。日々の暮らしの様々な場面で反映に努めている。又、「いるか新聞」を年4回発行し、外部者へ表せる機会を設けている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	業務カンファレンスや申し送り時、職員の意見を聞き業務に反映できるように努めている。また、業務を担当制とし担当者が責任を持ってできるような体制作りをしている。	管理者、職員の要望、意見を取り入れ、代表者がしっかりと傾聴し可能な限り実践されている。担当制導入で責任、気付きやアイデアを運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度を取り入れ、給与・賞与に反映させている。必要以上の時間外労働をなくすよう業務の見直しをしている。また、各自目標を設定し、やりがいを持って仕事ができるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	業務に必要な外部研修に参加している。また、法人内では、月1回の伝達講習会の開催、グループホーム内では勉強会を開催している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会に参加することで他施設との交流を図っている。また、同市にある他のグループホームへ「いるか新聞」を郵送している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時には積極的にコミュニケーションを図り利用者本人が望んでいること、困っていることなど聞き出すように努め、安心して暮らして頂けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に、家族から今までの生活歴等の情報を聞き、ケアに活かせるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時には、かかりつけ医を受診し、今後必要な医療、リハビリなどのサービスを多職種で検討し、本人、家族と相談して導入している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は共に暮らす家族として寄り添い、さりげなく支えることに努めている。利用者を介護される一方的な立場にならないように、家事などを積極的にしていただいている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃の様子に変化があれば随時電話で報告している。また、毎月の手紙で個別の近況報告をし、いるか新聞を郵送している。ケアプランの説明では家族の意見を聞きながら、必要に応じ家族に協力してもらっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	個々の希望に合わせた外出支援を可能にしている。馴染みの美容院へ行ったり、自宅近くのスーパーへ買物に行ったり、隣接する施設へ知人に会いに行ったりカラオケをしに行っている。	家庭的な雰囲気のもとで日常の暮らしが行われており馴染みの関係の継続と支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の相性を考慮し、二ヶ所の食堂を有効に使い、利用者が穏やかに暮らせるように配慮している。また、それぞれのペースを尊重しながら、家事の参加など共同生活者としての支え合いを大切にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後、他施設へ入所した場合は訪問したり、施設職員に近況をたずね、状況把握に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の発言、表情の変化に気を配り、思いをくみ取るよう努力している。些細な変化もみのがさないよう日常の記録を詳細に残し、適切なアセスメントが出来るように努めている。	日頃の関わりの中で、その人の一つひとつの言葉を上手に引き出し職員の「見る目」「聴く耳」「気付」等で把握し詳細に記録しその人らしい暮らしの支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時、家族から生活歴、家族関係、嗜好などについてできるだけ詳細な情報をもらうようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身の状況など日頃の変化は詳細に記録し、全職員に申し送っている。三ヶ月に一度アセスメントを全職員で行い、同時に長谷川スケールをし、入居後の変化、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	全職員でアセスメントを行い、適切な現状把握に努め、適切なプランを作るようにしている。また、医師、看護師、管理栄養士、リハビリ職の意見も取り入れながら、プランを作成している。	日々接している職員からの情報や介護記録、カンファレンス、モニタリング等、又、本人、家族からの意見を参考にしながら現状に即したプラン作成に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録は、関わった職員がそれぞれ詳細に記録し、プランの実践に努めている。月一回の業務カンファでモニタリングを実施している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々のニーズがあれば、柔軟な対応をしている。身体、精神状態に変化があれば、随時プランを見直し、ケアに反映できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	かかりつけ医を継続して受診したり、行き慣れた美容院を利用したり、図書館、スーパーでの買物、外食等、地域交流を大切にしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は利用者、家族の希望により選択が可能である。歯科往診もあり、希望者はいつでも受診できるようにしている。身体不調など緊急時には、当法人の医療機関を受診することができ、柔軟に対応している。	基本は家族同行ですが、同行出来ない家族に変わり受診同行している。眼科受診、歯科往診、緊急時には、当法人の医療機関での受診など柔軟な対応と支援に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師を配置しており、介護の際の気づきを看護師に報告、相談している。看護師は利用者の状況について申し送り、全職員情報を共有できるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、グループホームでの生活状況について詳細な情報を提供している。入院後は、家族、医療機関と連絡を取り合い、状況の把握をし、今後の方針を話し合っている。退院前には医療機関と連絡を取り、情報収集を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に今後グループホームでどのような生活を望んでいるのか、利用者、家族の意向を聞いている。重度化した場合や終末期のあり方については、その状況になった時点でかかりつけ医と連携し、看護師または管理者から家族に連絡、相談する体制を取っている。	利用者、家族の意向を聞いて支援している。今までの経験により医師、看護師の協力で安心して納得した終末期を迎えられるよう取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員が緊急時の対応ができるように、看護師が中心となり感染症対策や応急処置法など、毎月の勉強会の中で訓練できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練を夜間設定、日中の設定で年二回実施し、水害時の非難訓練も行っている。夜勤者は、災害時の対応マニュアルを確認している。	日中、夜間を設定し消防署の協力の下で年2回防災訓練を実施している。火災通報器、スプリンクラーも設置、またマニュアルも掲示し、一目で見えるようにしている。今回は隣接の専門学校の水害訓練に取り組んでいる。	南海トラフ地震予報が報道されており、立地の面からこれからも水害訓練等対策を実施される事を期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の主体性を引き出すように言葉使いに気を遣い、指示・命令することがないように意識している。利用者にとってどのような言葉かけが安心につながるのか検討している。	人生の先輩でもあり、指示、命令する事がないように誠意を持って一人ひとりを尊重した言葉掛けに努めている。「○○ませんか」と選べるような、丁寧な優しい言葉掛けで安心していただけるよう心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	話しかける時に選択肢を出す事で、希望が叶うようにしたりスタッフが教えてもらうような場面を作ることで自信につなげるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	集団行動ではなく、個々のペースを大切にしている。利用者の言動を制止することないように、個々の動きに合わせたさりげない声掛けに努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	それぞれの生活スタイルを大切にしながら、衣類のおしゃれやお化粧を楽しめるようにしている。また、希望する地域の美容院や理容院を利用することができる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好みに合わせて、パンをご飯に変えたり、肉を魚に変えている。また、利用者の能力に応じて、皮むき、包丁、味見、食卓拭き、盛り付け、食器洗い等配分し、一人ひとりが食事作りに参加できるようにしている。	一人ひとりの好みに合わせ食欲を高め食事を楽しんでもらっている。また調理、盛り付け、片付け等利用者の力を発揮し出来る喜びを職員と一緒に分かち合った活動がされている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量はチェック表を使い、管理徹底に努めている。摂取しやすい食事形態、好みの飲料等、個別に対応し、満足できる食生活が送れるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアをしている。個々に合わせて洗面所までの誘導、助言、磨き直しをすることで保清に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄状況を個別に記録し、排泄パターンの把握に努めている。入居後は、できる限りおむつの使用を減らし、トイレでの排泄、布パンツへ移行するようにすすめている。	布パンツに移行することを目標に日中は一人ひとりの把握が出来ており、さりげない誘導で失敗0を目指し取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況を排泄チェック表で把握し、朝食後のトイレを習慣化することで、自然排便を促している。乳飲料や繊維質の多い野菜、オリゴ糖の提供や入浴することで排便につなげている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	時間や曜日を限定することなく、入浴できるようにしている。入浴拒否のある利用者には、どのタイミングで声かけすれば気分良く入浴できるか検討し、保清に努めている。	朝風呂、夜間、毎日、といつでも好きな時に入浴できる支援がなされている。拒否する人にはタイミングを見て、ゆっくりと湯船に浸かってもらうよう柔軟に対応した入浴支援に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の希望や、その日の状態に合わせて起床時間にも配慮している。また、居室で午睡したり、共有空間で自由にくつろげるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服している薬について全職員が常に確認できるように、薬の情報を介護記録のファイルに綴じている。また、状態に変化があれば、提携医療機関へすぐに報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事仕事への参加、新聞取り、犬の散歩等それぞれに合った役割が持てるように支援している。また、買物、ドライブ、カラオケ、犬との触れ合いなど個々の楽しみを生活の中に取り入れるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩、買物、ドライブ、外食、美容院、図書館、隣接する老人保健施設への外出等個々の希望が実現できるように柔軟に対応している。	日常的に外出支援が行われており、外食支援で利用者の明るい表情が見られるようです。お花の咲く頃にはカキツバタ、ポピー、アケシ草、ヒマワリ畑もリフト車で大勢で見学に出かけている。	これからも家族に呼びかけ外出の機会を増やしていられる事を期待します

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小遣いはまとめて管理し、使用毎に預かり金表に記入し、領収書の発送、利用状況を家族に確認してもらっている。また、希望があれば小遣い程度の金額を自己管理できる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも電話を利用することが可能であり、希望に合わせて電話をかけている。毎月の家族への手紙に本人に文や宛名を書いてもらったりしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	二ヶ所の食堂があり、利用者の相性に配慮し、落ち着ける場所がある。正月飾り、雛飾り、風鈴花を飾る等季節を感じられるようにしている。	共用空間は温度設定がなされ、庭には水仙、パンジーが咲ほこり、フローアへ香りがいっぱい季節を感じます。壁には額入りの絵が飾られ心地よく過ごせる工夫がなされ、旅行写真も飾ってありました。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食卓、ソファー、畳コーナーなどそれぞれ落ち着ける居場所がある。利用者の体調、気分を見極めながら落ち着ける場所を検討し、穏やかに過ごしていただけるように配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来る限り使い慣れた家具を持ち込んでもらうようにしている。居室は、混乱することがないように、家具の配置や壁飾りなど利用者、家族と相談しながら設置し、安全で安心な空間となるようにしている。	思い出の品が持ち込まれ一人ひとりの利用者の気持ちに配慮されている、安全で安心した生活を送れるよう工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室が分かりにくい利用者には、表札をつけたり、夜間のトイレはダウンライトで分かりやすくなっている。		